

本チェックシートは、MB90895シリーズでのシステム開発において問題を未然に防ぐ事を目的として準備させていただいております。より潤滑にMB90895シリーズをご利用いただく上で、最低限必要と思われるチェック項目をリストにしたものです。是非、ご活用下さい。

項目	チェック内容	チェック理由	チェック結果	備考	
CAN関連	受信エラーとバスオフについて	受信エラーによるバスオフの可能性がない事を知っていますか?	受信エラーによるバスオフが発生すると思つてソフト開発されているケースがありますがその場合の処理は、無効となります。	Yes / No	
	標準ID受信時のIDチェックについて	CANデータ受信時の標準ID処理において対象ID以外はフィルタリング処理がされていますか?	対象でないID(拡張フォーマットと標準フォーマットの差異部)は、他のIDデータが入っている可能性があります。例:ある標準IDを処理する必要があるが、対象ID処理ルーチンでデータ受信されない場合があります。	Yes / No	
	メッセージバッファ許可/禁止	受信処理ルーチンにおいて、対象メッセージバッファ無効(BVALR)を行うのでは無く、受信オーバーランレジスタ(ROVRR)を使用してデータ処理を行っていますか?	Hit and Awayが発生する可能性があります。	Yes / No	
	エラーカウンターとステータス	エラーカウンタのみでエラーステータスの判定を行っていますか?	エラー発生後にエラーカウンターが256を超える場合、エラーステータスとエラーカウンタ値が合わない場合があります。	Yes / No	
	受信エラーカウンターについて	受信エラーカウンタがREC<=>128の状態において正常受信が行われると119<=>REC<=>127に遷移する事を知っていますか?	受信エラーカウンタに依存したソフトがある場合に注意が必要です。	Yes / No	
	CAN-TX端子のグリッジ	CANのTX端子へグリッジが出力される可能性がある事を知っていますか?	システムの悪影響を及ぼす事は、ありませんが、システム検証時の情報として知っておいて下さい。	Yes / No	
	高速CANと発振子の制	高速CANデータ通信を行っている場合、精度の良い発振子を使用していますか?	許容できる発振子の誤差は、CANのボーレートに依存するため、発振子の誤差が大きいと通信が正常に行われない場合があります。	Yes / No	
	DLC=9以上の処理	データ受信時のDLC判定でDLCが9以上が来た時の事を考えたフェールセーフソフトになっていますか?	CANの規格ではDLCは8以下ですが、9以上の送信は規定されていません。そのため、9以上のDLCが来ても問題にならない様にフェールセーフを考慮したソフトの開発をお奨めします。	Yes / No	
	Hit and Away	メッセージ受信中及び、送信許可中に対象となるメッセージバッファの禁止処理(BVALR)の制御を行っていますか?	Hit and Away回避が発生する可能性があります。	Yes / No	
	CANボーレート	CANボーレートを決定するための各セグメントの条件を考慮した設定にしていますか?	CAN送受信が正常にされない可能性があります。	Yes / No	マニュアルのTSEG1 2TQ,TSEG1 RSJW,TSEG2 2TQ,TSEG2 RSJWの条件を満たしているかの確認をお願いします。
	アクセプタンスマスクレジスタの切り替え	HALT=0の間にアクセプタンスマスクレジスタの変更をしていますが?	HALT=1にしてメッセージバッファの無効処理を行ってからアクセプタンスマスクレジスタとHit and Awayが発生する可能性があります。	Yes / No	
	HALTビットクリアタイミング	HALTビットをクリアする場合、HALTが1である事を確認して、クリアしているでしょうか?	HATL=0 1になるタイミングでHALTビットをクリアすると内部的な動作不一致が起こる可能性があります。	Yes / No	
CSRへのRMW命令実行	CSRへRMW命令を実行する事がマニュアルで制限されているのを知っていますか?	CSRへのRMW命令実行については、RMW命令を実行する事を制限しております。RMW命令実行を避けてソフト開発される事を推奨致します。	Yes / No		
IDR	IDにIDをセットしないまま、メッセージバッファ(BVAL)をイネイブルにしないでしょか?	IDをセットするIDRは、初期値不定です。そのため、値をセットしないままに対象メッセージバッファをイネイブルにすると、不定のIDのデータを受信する可能性があります。	Yes / No		
受信割り込み処理	CANの受信割り込みルーチンにおいて、全てのメッセージバッファでRCが必ずクリアされているか確認下さい。	CANの受信割り込みルーチンで本来受信しないと思われるメッセージバッファの割り込みフラグ(RC)もクリアする様なフェールセーフを意識したソフト開発を推奨致します。	Yes / No		
CPU	パワーオンリセット	電気的特性のパワーオンリセットの規格を満足していますか?	パワーオンリセットの規格を満足しない電源投入があった場合、正常にリセットが掛からないままCPUが命令実行する可能性があります。	Yes / No	電源投入時のリセットを期待するシステムの場合のみ対象(電源監視用ICを使用して二次的なリセット入力期待できる場合は、対象外)
	外部リセット	リセット入力幅は、当社規格を満足しているか?	リセット入力幅が規格を満足しないと、復帰できなくなる恐れがあります。	Yes / No	
	ハードワイヤードリセット	FLASHマイコンにおいて、リセットベクタとモードデータは内部回路により決まっています。(リセットベクタアドレス:FF3000H、モードデータ:00H)	プログラムの開始アドレスをハードワイヤードリセットの固定ベクタアドレスに合せていないと正常に動作しません。なお、本件、評価用のEVAチップではデバッグ出来ませんので、ご注意ください。	Yes / No	
	PLL Main	CPUの動作スピード変化時のMain PLL Main PLLの状態遷移において変化タイミングに注意してソフト開発していますか?(MCSの1書き込みから0書き込みまで8サイクルウェイトする必要がある事を考慮していますか?)	MCSの1書き込み(Main)から0書き込み(PLL)まで8サイクル内は、0書き込みが無視される可能性があります。	Yes / No	マニュアルのMCSビットの説明を参照願います。
	Main(PLL) Sub Main(PLL)*	CPUの状態遷移時(Main or PLL Sub Main or PLL)の状態遷移においてMCM,SCMのビットにより設定した状態にCPUが遷移している事を確認してから他の状態遷移する様にしていますか?	SCSの0書き込み(Sub)から1書き込み(Main)するまで、1サブクロックサイクル内は、1書き込みが無視される可能性があります。SCSを切り替える場合は、必ずSCMにて期待する状態に遷移しているかどうかを確認してからSCSの変更をして下さい。	Yes / No	マニュアルのSCMビットの説明を参照願います。
	PLL Sub(Stop) PLL	メインクロック停止状態から解除され、直ぐにPLLモードに遷移する場合、メインクロックの発振安定待ち時間は、PLLのロック待ち時間より長く設定されていますか?	PLLモードがサブRUN(or STOP)状態に遷移し、再度PLLモードに遷移する場合、必ずPLLのロック時間以上のメインクロックの発振安定待ち時間を設定する必要があります。	Yes / No	
	内部クロック動作モードの切り替え	内部クロック動作モードの切り替え(PLL,メイン,サブ)において、切り替え中に他のモードへ切り替えを行っていますか?	内部クロック動作モードの切り替え(PLL,メイン,サブ)において、切り替え中に他のモードへ切り替えを行うと切り替えタイミングにおいて問題が発生する可能性があります。(サブ動作 メイン発振において、メインクロック発振安定待ち時間中にPLLモードに遷移しようとする行為などは、禁止させていただきます。)	Yes / No	マニュアルのMCS,SCMビットの説明を参照願います。

本チェックシートは、MB90895シリーズでのシステム開発において問題を未然に防ぐ事を目的として準備させていただいております。より潤滑にMB90895シリーズをご利用いただく上で、最低限必要と思われるチェック項目をリストにしたものです。是非、ご活用下さい。

項目	チェック内容	チェック理由	チェック結果	備考
スタンバイモード遷移	スタンバイモード遷移時の注意事項についてご存知ですか？	スタンバイモード遷移のため、低消費電力モード制御レジスタをアクセスする際には、以下の斜字部分の命令追記をお願いします。 MOV LPMCR,#xxh ;スタンバイモード遷移命令 NOP NOP JMP S+3 ;次の命令へジャンプ 詳細については、ハードウェアマニュアル(低消費電力モードの章)を参照願います。	Yes / No	スタンバイモードを使用する場合のみ対象。
タイムベースタイム	メインモード PLLモード、メインモード サブモードへの状態遷移時には、タイムベースタイムの割り込みを禁止していますか？	タイムベースタイムは、発振安定待ち時間、PLLクロック安定待ち時間のカウント用として使用されますので、以下の状態遷移でカウンタが自動的にクリアされます。 ・メインクロックモードからPLLクロックモード遷移 ・サブクロックモードへの遷移 ・ストップモードへの遷移 メインモード PLLモード、メインモード サブモードへの状態遷移時には、タイムベースタイムの割り込みを禁止してないと、意図しないタイムベースタイム割り込みが発生する可能性があります。	Yes / No	
A/Dコンバータ	アナログ入力インピーダンスがデータシートに記載されているアナログ入力インピーダンス以下ですか？アナログ入力インピーダンスが高い場合、アナログ入力端子に0.1uF程度のコンデンサを付ける必要があります。	アナログ入力インピーダンスが大きき場合、アナログデータのサンプリング時間が足りなくなる場合があります。	Yes / No	A/Dコンバータを使用する場合のみ対象
	AVR,AVCCの電圧レベルは十分に安定しているでしょうか？	アナログ系電源とデジタル系の電源分離などを行うためにリアクタンスをAVR,AVCCにいれるケースがあります。この場合、AVR,AVCCには、数uF以上の容量をつけるなど、A/D起動時に十分な電源供給ができる様に回路構成して頂く事を推奨いたします。	Yes / No	A/Dコンバータを使用する場合のみ対象
	アナログサンプルホールド時間は、十分に確保していますか？	アナログ入力インピーダンスが大きき場合、アナログ入力端子にグリッジが発生します。そのグリッジは、アナログ入力インピーダンスを内部容量の定数で決定しますが、サンプルホールド時間が短いとサンプルホールド値がグリッジの影響を受ける可能性があります。(Flash,Mask間でも相違がありますので、アナログ入力インピーダンスが高い場合は、十分にサンプルホールド時間を得る事を推奨します。)	Yes / No	データシートの推奨アナログ入力インピーダンス以上でご使用になる場合のみ対象
	A/D変換終了とA/D起動が同時に行われることはありませんか？	A/D変換終了とA/D起動が同時に行われた場合、2回目の起動は無視される可能性があります。	Yes / No	A/Dの動作中にA/D起動を行っている場合のみ対象
未端子処理	使用していない端子は、2k 以上の抵抗を返してプルアップもしくはプルダウン処理していますか？もしくは、端子開放でインシャルルーチン内でポート出力処理を行っていますか？	未使用端子が抵抗を返さず端子処理された場合、CPU暴走によりポートレベルが処理レベルと反対のレベル出力した場合にラッチアップ等の問題が発生する可能性があります。	Yes / No	
割り込み	例外割り込みの割り込みベクタ処理をしていますか？	暴走等により未定義命令が実行された場合の暴走要因になります。	Yes / No	未定義命令実行時には例外割り込みが発生しますので、特別な処理が必要な場合は、その処理にジャンプする様にして下さい。特別な処理が必要でない場合は、リセットベクタへのジャンプ設定を推奨します。
	メインルーチン内で割り込み要因のクリアを行ってないでしょうか？	割り込み要因のクリアと割り込み要因のセットが同時に行われる可能性がありますので、割り込み要因クリアは割り込みルーチン内で行われる事を推奨いたします。もし、メインルーチン内で割り込み要因をクリアする場合は、対象のペリフェラルの割り込みを禁止してから割り込み要因をクリアして頂く事を推奨いたします。	Yes / No	特に、UARTについては、非同期で受信割り込みがセットされますので、割り込み要因クリアと同時に実行される事の無い様に割り込みルーチン無いでクリアするか受信割り込みを禁止してから割り込み要因をクリアして頂く事を推奨します。
	未使用割り込みベクタの処理をしていますか？	暴走等により未使用割り込みが発生した場合の暴走要因になります。	Yes / No	特別な処理が必要な場合は、その処理にジャンプする様にして下さい。特別な処理が必要でない場合は、リセットベクタへのジャンプ設定を推奨します。
ビット操作命令	各リソースのレジスタでリードモディファイ命令を禁止しているものがありますが、対象レジスタにRMW命令を使用していないか？(ライトオンリーのビットを含むレジスタにリードモディファイ系の命令を実行していませんか？)	命令実行が正常にされず、意図しないデータが書き込まれる可能性があります。(ライトオンリーのビットを含むレジスタに対しリードモディファイ系命令(SETBなどの命令)を使用するとライトオンリービットのリード値が不定のため、問題になる可能性があります。なお、マニュアル上でリードモディファイライトを使用しても問題ないと記載されているレジスタについては問題ありません。)	Yes / No	リードモディファイライト系の命令は、命令一覧表のRMWに*がある命令を示します。
メインクロック発振安定待ち	システムと発振子とのマッチングデータを取得し、必要な発振安定待ち時間を把握していますか？	正常発振しないまま、CPU動作をさせる事が懸念されます。	Yes / No	ご使用される発振子メーカーに発振評価依頼をして下さい。
サブクロック発振安定待ち	サブクロックの発振が安定していない状態でメインモードからサブクロックモードに状態遷移していますか？	サブクロックは、メインクロックより発振安定時間が必要です。そのため、サブクロックモードに遷移する場合は、サブクロックが発振安定してから状態遷移する必要があります。	Yes / No	サブクロックを使用する場合のみ対象
ストップモード	PLLモードからメインモードを返さず直接ストップモードに遷移もしくは、直接時計モードに遷移している場合の発振安定待ち時間は、2M4/HCLK以上に設定してありますか？	PLLストップもしくは、PLL時計モードからの復帰には、発振子の発振安定待ち時間にPLL安定待ち時間が必要(2M4/HCLK以上)になってきます。そのためCKSCRのWS1,WS0の値を10 or 11に設定する必要があります。	Yes / No	
ウォッチドック	タイマ割り込みなどによりウォッチドックタイマをクリアしていませんか？(PLL通信誤設定及び、間欠動作モードも考慮しているか？)	ウォッチドックリセット間隔が十分に考慮されていないと、プログラムが正常な手順で進んでいるかどうかの検出が出来ません。	Yes / No	
ウォッチドック*	サブ動作時に内蔵ウォッチドックタイマを使用される場合、ウォッチドッククロックソースを時計タイマを使用する様に設定(WDCS=0)していますか？	サブ動作時に内蔵ウォッチドックタイマを使用される場合、ウォッチドッククロックソースとしてタイムベースタイマを設定(WDCS=1)するとサブ動作時のウォッチドックが発生しない場合があります。	Yes / No	

MB90895シリーズ開発チェックシート

本チェックシートは、MB90895シリーズでのシステム開発において問題を未然に防ぐ事を目的として準備させていただいております。より潤滑にMB90895シリーズをご利用いただく上で、最低限必要と思われるチェック項目をリストにしたものです。是非、ご活用下さい。

項目	チェック内容	チェック理由	チェック結果	備考	
	外部リセットIC	外部リセットICを使用する際、低電圧検出値はマイコンの動作保証値内か？また、検出後の発生するまでの電圧降下は考慮されているか？	動作保証値内でリセットが入力されない誤動作の恐れがあります。	Yes / No	データシート内の動作保証範囲を確認願います。
	I/Oポート	システムにおいて、重要なポート入出力においては、フェールセーフを目的に追い書きなどの処理を行っていますか？	基本的には、ソフトで設定しないかぎりポートの状態は変化しません。しかしながら、システムのフェールセーフを目的として、重要ポートには、追い書き等のリフレッシュ機能をソフト的に挿入する事を推奨いたします。	Yes / No	
		CMOS入出力ポートを出力として使用する場合、PDRxレジスタを設定してからDDRxレジスタを設定していますか？	PDRxレジスタの初期値は不定ですので、PDRxレジスタを設定せずにDDRxレジスタで出力設定すると不定出力することになります。出力として使用する場合はPDRxレジスタを先に設定してください。	Yes / No	
	全般	使用電圧範囲、使用温度範囲、使用動作周波数は、富士通の定める規格を満たしているか？満たしていない場合は特殊保証の検討と取り交わしを行っているか？	保証範囲外でご使用される場合、製品保証ができなくなります。	Yes / No	データシート内の動作保証範囲を確認願います。
ノイズ対策 及びその他	Mode端子	MOD端子の処理は、命令実行中でも同一レベルが確保されていますか？	MOD端子レベル誤読しする恐れがあります。(MOD端子が処理が高インピーダンスの抵抗で処理されている場合など、ノイズによりMOD端子レベルが確保できなくなる可能性があります。)	Yes / No	外部ノイズがMOD端子に周り込み安い場合は、モード端子にコンデンサを接続する等の静電気対策を行われる事を推奨いたします。
		MOD端子の処理の配線が長かったり、隣接に大電流信号がないですか？	電源変動やノイズの影響でMOD端子レベル誤読しする恐れがあります。	Yes / No	
	発振	水晶振動子を使用している場合、適正なダンピング抵抗が挿入されていますか？	水晶振動子を使用する場合は、励振電流を抑制するためにダンピング抵抗が必要です。	Yes / No	ご使用される発振子メーカーに発振評価依頼をして下さい。
		量産チップで発振のマッチングデータを取得していますか？	Flash品とMask品では発振特性が異なる場合がありますので、量産品において発振マッチングデータを取得する事を推奨します。	Yes / No	ご使用される発振子メーカーに発振評価依頼をして下さい。
		発振回路部のダンピング抵抗値は不要輻射ノイズと発振振幅を意識して値を決定していますか？	発振が正常にされなかったり、発振のオーバershoot、アンダーシュートにより不要輻射ノイズが増加する可能性があります。	Yes / No	不要輻射ノイズ問題が発生した時は、まず発振波形を確認しつつ不要輻射ノイズ対策としてダンピング抵抗の挿入検討が必要で
		発振子は、出来るだけチップの近くに配置していますか？	外来ノイズによるCPU暴走の恐れが考えられます。	Yes / No	発振子は、必ずチップ近くに配置する事を推奨します。
	Vcc,GND	Vcc,GNDは出来るだけ強くなる様に考慮されていますか？	不要輻射ノイズの問題及び、外来ノイズによるCPU暴走の恐れが考えられます。	Yes / No	不要輻射ノイズ及び、外来ノイズ問題事前回避を考えると、電源,GNDを極力広く取る事を推奨します。(チップの下などは、GNDを置く事でGND強化が図れます。)
	ESD,ラッチアップ,ノイズ	量産チップでESD,ラッチアップ,ノイズ評価を行っていますか？	Flash品とMask品ではESDラッチアップ,ノイズの実力が異なりますので、量産品においてESD,ラッチアップの評価を行う事を推奨します。	Yes / No	MASK/FLASH間の実力特性データについては、特例として当社測定結果を提出する事は可能ですので、ご要求願います。
	コンデンサ	ノイズ対策用のコンデンサは、チップの近くに最適値のコンデンサが接続されていますか？	ノイズ対策に付けたコンデンサがリードのリアクタンス成分で効かない場合があります。(ノイズ成分を考慮した対策が必要です。)	Yes / No	
	C端子	Vccに接続される平滑コンデンサは、C端子に接続する平滑コンデンサより大きいのか？	Vcc端子の平滑コンデンサが小さいと内部レギュレータが不安定になる恐れがあります。	Yes / No	
Lの入れ方	電源リアクタンスを直接接続していませんか？	リアクタンス成分によって、内部レギュレータの特性が得られなくなる場合があります。	Yes / No	チップの電源に直接Lを入れる場合は、チップ電源とLの間にCを挿入する必要があります。	
メモリマップ	ツール評価時にメモリマップでFlash,MaskチップのROM,RAM容量に合わせて、未使用領域はガードブレイクを有効にして動作確認をしていますか？	評価用のEVAチップとFlash,Maskチップの内蔵メモリ容量が異なります。そのため、ツールでは正常に動作確認が出来ても、実チップでは、動作しない可能性が非常に高くなります。	Yes / No		
スタック使用量	スタックの最大使用量をチェックしていますか？	スタックの使用量の見積もりを間違えるとRAM破壊の可能性がります。	Yes / No	SoftuneのCアナライザなどを使用してスタックの最大使用量をチェックされる事を推奨します。(なお、Cアナライザでは、動的なスタックはチェックできませんので、多重割り込み発生時など考慮して確認する必要があります)	
ツールの動作モード	最終ツール評価時に動作モードをネイティブモードに設定して動作確認を行っていますか？	ツールの動作モードでネイティブモードとデバックモードがあります。デバックモードでは、実動作速度と異なるため、最終ツール評価時には、ネイティブモードに設定して評価する事を推奨します。	Yes / No		